

令和 5 年 1 2 月 2 0 日

豊田市長 太田 稔彦 様

末野原地域会議
会長 清水 邦雄

答 申 書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第202条の7第2項の規定に基づき諮問を受けたことについて、下記のとおり答申します。

記

1 「(仮称) ミライ構想」のめざす姿やまちづくりの基本的な考え方について

第9次豊田市総合計画（以下9総）策定の指針として、変化の激しい社会に対応するため「(仮称) ミライ構想」を羅針盤として位置づけ、変化に対応し施策の見直しを行いながらまちづくりを進めることについては賛同できます。しかしながら、「(仮称) ミライ構想」について説明する言葉が抽象的で、全体像が捉えにくいように感じました。

特に、将来都市像として掲げる「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」は、具体的な未来の生活イメージを思い描くことが難しいと感じました。

また、“暮らし楽しむ”は、“安心安全”が前提にあると考えますので、その前提が読み取れる表現や説明になるとよいのではないのでしょうか。

行政と市民が同じ将来像を思い描くことが目標達成に向けて重要であると考えますので、市民がイメージしやすい言葉で「将来像＝めざす姿」を示す工夫が必要です。

(仮称) ミライ実現戦略2030の方向性（素案）では、横断的な目標の中に“高齢者”が含まれていません。今後、少子高齢化が進む中で、高齢者への取組は欠かせない重要な課題です。第8次豊田市総合計画の後期実践計画では超高齢化社会への適応が重点施策となっていましたので、9総の実践計画ではさらなる取組を期待します。

2 都市構造について

「コンパクト+ネットワーク」について、広大な地域を抱え、居住地域も拡散している豊田市で中心部とそれを取り巻く拠点を作り、その拠点をネットワークで繋いでいくというのは市の特性が良く活かされており理想的な考え方です。

一方で、私たちの住む末野原地区に近接する都市拠点には上郷ですが、残念ながら暮らし機能や交通ネットワークが整っているとは言い難く、他の都市拠点との格差を感じます。そのため、上郷においても、将来にわたって安心して暮らし続けることができる「まち」となるような、具体的な施策を示していただきたいです。

例えば、この地域には大型ショッピングセンターのような人が集まる商業施設がなく、都市拠点としての魅力が乏しいと感じます。えきちか居住誘導エリアを設定するのであれば、暮らし機能や交通ネットワークの整備だけでなく、魅力ある大型商業施設の誘致等で、暮らしたいと思えるまちづくりも必要だと考えます。今住んでいる私達が地域に魅力を感じ誇りに思うようなまちづくりを進めていただくことを望みます。

また、まちづくりの新たな視点に、「くらし機能の連携」と「(仮) えきちか居住誘導エリアの設定」がありますが、山村地域だけでなく都市部においても深刻化している空き家や耕作放棄地の有効活用について、今ある資源の利活用という視点から項目に加えることを提案します。

3 まとめ

総合計画は、市民全体に関わるまちづくりの柱となる計画です。しかしながら、諮問時の説明資料だけでは真意を汲み取ることが難しかったため、総合計画を策定するには誰がみてもわかりやすい言葉や図等で示していただきたいです。そして行政も市民も同じ豊田市の将来像を思い描くことができれば、より良い計画になるのではないのでしょうか。

住んでいる私達が、安心して暮らしを楽しみ、近隣市町村からも訪れていただけるような、わくわくする計画になることを期待しています。

なお、諮問内容を協議する中で各委員から出された個別の事業等に関する意見を別添にまとめました。

個別の事業等に関する意見

区 分	意 見
総合計画の 実践	<p>第9次豊田市総合計画の策定時に幅広い世代の意見を反映できるとよい。</p> <p>特に子どもの意見については、学校の授業等で住みよいまちの将来像について話し合い、自分達の意見が総合計画に反映されることで、子ども達が大人になった時に自ら総合計画実行の一翼を担うことを期待できる</p>
公共交通	<p>公共交通の利便性向上に繋がる名鉄名古屋駅への直行運転は豊田市にとって重要なテーマである。ぜひ実現し、利便性の高まる豊田市駅、土橋駅、若林駅へ繋がるバス路線の整備や、自動運転バス、路面電車等新たな公共交通の整備を検討し、多様な移動手段の確保を願う。</p>
防災	<p>矢作川の堤防を強化すると共に河川沿いに自動車道やサイクリング道、散策道を整備し、水害に対する安全性の確保に取り組んでいただきたい。</p> <p>近年、気候変動により、気温の上昇、台風・集中豪雨の大型化による洪水被害が全国的に広がっている。こうした現状をふまえ、防災対策の強化を行う必要がある。災害による住宅の浸水被害が発生した場合、迅速に仮設住宅等を設置するために事前に候補地を確保及び安心して避難生活ができる様ボランティアを含めた運営組織の育成を望む。</p>
教育	<p>日本経済は、大企業を除き赤字(国、民間企業、農業等)だらけで、国も赤字国債を発行して次世代に負担を残す財政運営である。そのような社会情勢の中、子ども世代のうちから経済学(特に収入と支出のバランスを考えた成長ある投資学等)を学ぶことの重要性を感じている。子どもが経済学を学ぶ機会の創出を望む。</p>

<p>高齢者</p>	<p>高齢者の生活支援、健康づくりについて、団塊の世代と言われる75歳前後の高齢者を対象としたさまざまな講座について低価格で開催していただきたい。講座の内容は終末期医療、介護保険制度、終活と資産運用等高齢者が生活するうえで必要な知識が習得できるとよい。</p> <p>また、高齢者に対するIT教育の推進も望む。外出困難となってもパソコンやスマートフォンを活用することで社会と繋がり、心の健康を維持できるのではないだろうか。</p>
<p>産業</p>	<p>山間地域で問題となっている耕作放棄地について、農地の多い末野原地域や上郷地域においても同様の問題を抱えている。農業従事者の高齢化や後継者不足が原因だと思うが具体的な対策がなされていない。また、増え続ける空き家についても現行の施策だけでは解消されない状況である。</p> <p>耕作放棄地や空き家対策には行政が積極的に介入し、資源として有効活用できるような対策が必要である。例えば、点在する空き家や農地を公共用地として集約し、農業協同組合等と共同して事業を立案したり都市機能を有する施設の建設地にしたり、空き家や耕作地を維持管理するための費用を行政が支援したりできるような、これまでにない仕組みができるとよい。</p> <p>耕作放棄地や空き家は豊田市のみならず全国的にも問題となっているため、対策の制度化を国へ働きかけることも検討して欲しい。</p>
<p>ごみ</p>	<p>家庭から出るごみを減らし、循環する仕組み作りを提案する。</p> <p>ごみの減量対策として生ごみをたい肥化するコンポスト購入に対する補助制度があるが、更に一步進んだ取組として、各家庭で生ごみから作ったたい肥を市が一括して学校や福祉施設等へ花壇や畑で活用できるように分配してはどうか。次世代を担う子ども達にも参加してもらうことでSDGsの取組に対する理解を深めることができるのではないだろうか。</p> <p>そして将来的には生ごみからたい肥、そして新たな農作物への循環機能を市全体で持てることが望ましい。</p>
<p>地域自治</p>	<p>自治区業務の負担軽減について提案する。</p> <p>自治区から配布している広報や回覧チラシについて、紙媒体を仕分けして各世帯に配布及び回覧するために作業負担が大きい。WEB配信を活用し、紙媒体は必要とする世帯にのみ配布する仕組みにはできないか。また、広報とよたについて自治区を通しての配布ではなく、市から直接配布することはできないか。</p> <p>また、自治区のデジタル化を推進するための知識や技術が不足しているため、市がデジタル化を支援する体制があるとよい。</p>

地域活性化	<p>豊田市運動公園は交通の便が悪く、駐車場も少ないため利便性が悪い。豊田スタジアムを陸上競技もできるように改修してはどうか。他市では運動公園が市内1か所に集約されているところもある。</p> <p>豊田スタジアムについては主にJリーグの開催のみで市民が自由に使用できない施設に対し多額の税金が投入されている。運営方法の見直しを図り、既存のスカイホールのほか、周辺に新たな野球場やテニスコート等を設置し一帯を運動公園として整備してはどうか。豊田市の中心部に位置するため市民の利便性が向上すると共に、高校総体や東海大会等の国内の大きな大会を誘致できれば経済効果も期待できるのではないかと。</p> <p>近年、ラグビーやバスケットボールのワールドカップでの日本選手の活躍は素晴らしいものがある。地元選手の活躍が我々に感動を与えてくれ、これにより地元商店等が活気付いて次の大会に向けて盛り上がる。そのため、豊田市出身のスポーツ選手が活躍する情報を市民がさらに手軽に入手できるよう、さまざまな手法で発信できる体制があると良い。</p> <p>ワールドカップラグビー、J1サッカー、WRCなど、国内外でも注目を集める大きなイベントの誘致はすごい事だと思う一方、このようなイベントがない普通の日には「チョット訪れてみたいな」と思われる町には達していないと感じる。市外の人達に「豊田市に行って〇〇しよう」と思わせるような魅力あるまちづくりを考えてほしい。</p>
-------	---